



太田 正幸  
(立憲農民クラブ)

## 子ども医療費給付事業の 所得制限の撤廃を

### 早期に実現できるよう検討

**問** 子ども医療費給付事業は、所得制限が条件づけられているが、子供への直接的な給付事業である。子供に差をつけない、平等に、公平に育てる趣旨からも所得制限要件を撤廃する考えはないか。

**答** 将来を担う子供たちの健やかな成長を図り、全ての子供が安心して医療機関を受診できる環境を整えるために、早期に実現できるよう検討していきます。

**問** 当市の65歳以上の高齢者が集落人口の半分以上を占める「基礎的条件の厳しい集落」を維持する政策として、住民と行政のつなぎ役を担う「集落支援員」を配置してはどうか。

**答** 配置には効果が見られる一方で課題もあるため、必要に応じて活用を検討したいと考えています。

**問** 築年数が長い学校、校舎は。

**答** 築年数の古い順で法奥小学校、藤坂小学校の普通教室棟、ちとせ小学校、甲東中学校の校舎となります。

**問** 今後の整備予定はどうなっているか。

**答** 築40年を経過する施設は、順次長寿命化改修工事を実施していくこととしており、建て替えについては、施設の適正規模や老朽化等を見極めながら検討していきたいと考えています。

**問** 当市の職員数は人口規模が同規模の一般市において全国では4番目、県内においても1番少ない職員数になっている。人手不足が予測されるが増やす考えはないか。

**答** 今後も引き続き最小の経費で最大の効果が挙げられるよう適正な職員配置に努めます。



小山田 剛士  
(黎明親和会)

## 「弁当の日」の取組への市の考えは

### 意欲ある小中学校を支援する

**問** 「弁当の日」は、子供たちだけで弁当のメニューを決め、食材を買い、調理して弁当箱に詰め、後片づけまで親の手を借りずに行う取組である。市内では、有志や、学校による講演会等が開催されるなど盛り上がりを見せているが、この取組への市の考えは。

**答** 昨年、市内で開催された元西日本新聞社の佐藤弘氏による講演を聞き、弁当の日の取組に強く心を動かされました。子供たちの将来にわたる健やかな食生活につながることに、農産物への関心が進んで食と農の発展につながるものと考えていることから、当市でも取組が進むよう、意欲ある小中学校に支援を行いたいと考えています。

**問** 取組を推進するため、十和田市食と農の推進条例に「弁当の日」を盛り込めないか。

**答** 本条例の趣旨に合った取組ですが、本条例はいわゆる理念条例という形を取っており、各種施策を列挙する形は取っていませんので、本条例に具体的な取組の一つである弁当の日を盛り込むことは条例の体系上考えていません。しかし、弁当の日の取組が進むよう、令和5年度は小中学校における啓発や、実践機会の提供、実践を見えるものにする広報活動の取組等の実施を考えています。

**問** 「弁当の日」の取組の意義をどのように小中学校に伝えていくのか。

**答** 教育委員会では、毎年市立小中学校を訪問し、教職員全員に学校教育指導の方針と重点の周知を図っており、その重点項目の一つである体育・健康教育の充実における食に関する指導の中で、食育の充実を図る事例として弁当の日等の学校の取組を紹介していきたいと考えています。